

諏訪実業高校 全日制 令和5年度 学校評価表(自己評価)

学校番号47 長野県諏訪実業高等学校

学校目標		重点目標				
1 学校におけるあらゆる教育活動を通して、社会的資質の向上、キャリア能力の育成、個性の伸張を図り、真に豊かな教養と実践力を持つ社会人の育成を目指す。 2 学力を保証し、人間的成長を保証し、進路を保証する高校を目指す。		1 専門分野を学ぶ意欲の醸成と基礎学力の定着 2 豊かな心から生まれるビジネスマナーの育成 3 地域社会を愛し活躍できる人づくりと進路の保証				
<b>今年度の重点目標</b>						
1 生徒が「実社会で信頼される人間」として自立し、進路実現を果たせるよう努めます 2 相手を尊重し、自己を肯定できる、丸く豊かな心を育てます ① いじめ・暴力のない安心・安全な学校をつくります ② 授業を大切にし、生徒の基礎力と専門性を伸ばします ③ 他者と協働し、新しい創造を発信して、地域に貢献できる人材づくりを進めます ④ 生徒に、見通しを持たせ、わかるように伝え、共感的に関わるように努めます ⑤ 時間を守り、時間を有効に活用することができる生徒を育てます ⑥ 身だしなみを整え、あいさつと清掃を進んで行う生徒を育てます						
総合評価	<b>[成果と課題]</b> ・アフターコロナの1年目。今まで出来なかった学校行事や、縮小開催にしていた学校行事が全て通常に戻っていく一年間だった。文化祭、修学旅行、講演タウン、ファッションショー、それぞれの活動の中で生徒が昨年度より生き生きと、活動、成長している姿があった。 ・普段の授業についても、休校続きの不安定な時期を終え、生徒たちが落ち着いて学習に取り組めるようになってきている。生徒の学習に対する意欲をいかに伸ばしていくかについては、今後も十分に考えていく必要がある。 ・落ち着いて学校生活を送ることができている生徒が多い反面、そういうことが困難な生徒もいる。目立つ生徒、目立たない生徒、それぞれのことを考えながら指導していく必要があるが、教員側に精神的にも肉体的にも余裕がないことが課題。 ・SPH後継事業は引き続き地域との連携を深め充実した取り組みを行っていく。生徒が主体となって取り組みができるように、教員の指導体制の充実も図る必要がある。		<b>[改善策・向上策]</b> ・教員が、それぞれの行事の様々な場面で生徒と向き合うこと、生徒を観察することの中で見てくる課題や成果が、翌年度の行事に生かされていることが必要。やりっぱなしで終わるのではなく、それぞれの行事や活動を振り返り、それを次に生かしていくことが出来れば、行事もより良いものになる。さらに生徒の意見に耳を傾けることで、生徒の「やらされている」感を払拭し、生徒の自己肯定感を高められる行事を実践していきたい。 ・大学受験等の切迫した事情の生徒が少ない学校の生徒に対するアプローチを考えると、「いかに生徒に力をつけるか」という発想とともに、「なぜその力が必要なのか」ということを教員側がしっかり考えて実践していく必要がある。本校の生徒に限らず、「やる気になればやる」ので、そのやる気をいかに引き出すかを更に深堀していく必要がある。 ・業務の精選や生徒の決まりの目見直しを行っていく必要がある。教員側の余裕が出れば、授業準備に割く時間や目の前の生徒一人ひとりに費やす時間が増えたと考えられる。 ・生徒が主体的、探求的、協同した学びが行えるように、今後も指導内容の研究、研鑽を行うこと、また、成果・課題の蓄積を次年度に生かしていく必要がある。			
	領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度
教育活動	I 生徒指導	1 社会的資質・規範意識の向上	・安心・安全な生活環境の整備 特にいじめ・暴力の未然防止と、慎重・毅然な対応	・担任・学年・係と連携共有しながら対応を進めた。また、生徒支援係とも連携を高めることができた。	○	・生徒が抱える問題は様々あり、それに対応できるように情報共有を適切に行っていく
			・交通法規を遵守し、交通安全意識の向上	・交通安全教育を実施し、交通安全意識の向上に努めた。登下校時の着音などが数件寄せられた。	○	・自転車の乗り方や管理、学校前の道路にて生徒の交通モラルの意識低下がみられる。さらなる方法を考えていく
			・法律・校則を遵守する意識の向上 規律と秩序ある生活態度の育成	・規範意識をもちながら生活できているが、一部にゴミの投げ捨てや言葉遣いなどモラル面での課題が見られる。	○	・校則の在り方について問われている。学校として、職員、生徒、保護者、関係者で検討していく。
			・マナー向上の促進 節度ある学校生活と地域からの信頼構築	・イヤホンやスマホの利用も含め、公共施設・公共機関や生活全般におけるモラルの欠如が散見された。	○	・公共の場であることをしっかりと理解し、行動することを考えていく
			・挨拶・身だしなみ・時間を守る指導の重点化 全職員による同一歩調の指導	・ヒアス増加傾向。カート丈の短さ、ジャージ、パーカー、トレー着用については依然として課題である。	○	・日課が変わり、遅刻者が減少した。今後授業改善と充実に取り組みしていく。
			2 健全育成	・人権を守る土壌の育成 他者への配慮ができる生徒の育成。 スマートフォンの適切使用について	・SNS関係のトラブルが後を絶たない。人権問題とともにモラル意識の欠如などが背景にあるように感じる。	○
	・教育相談係	3 相談と支援	・生徒との対話の尊重 問題行動の未然防止・早期解決	・職員から生徒への声掛けにより問題行動の未然防止と、深刻化の防止を図ることができた。	○	・職員の情報共有を密に取りながら生徒一人ひとりに対応できる体制を作っていく。
			・学年・クラス担任と連携し、生徒・保護者の心情・背景を踏まえた適切な問題行動への対処 ・指導の定着を図る事後指導	・遅刻者が多くSHRでの連絡停滞が生じやすかった。そのため生徒、担任、係との連絡不十分が多かった。 ・声かけや面談を通して教科担当や他の機関と連携を図りながら進めた。	○	・様々な家庭状況がある。生徒、保護者、職員の連携をこまめに行い、安心した学校生活に努める ・指導にあたっては保護者の理解、協力が深まるようにアプローチする。
			・校友会活動との連携による、指導効果の向上。特に身だしなみの改善	・科ノ葉祭における身だしなみ確認など、生徒会と連携しながら実施できた。日常生活での連携も強化したい。	○	・校友会との連携により、身だしなみ、交通安全活動ができた。さらに活動をふやしていきたい。
			・アルバイトへの対処の推進 本校生徒としての自覚を促す 許可生徒への指導の充実	・アルバイトについては年度更新等を含め許可制であることを再三周知することができた。	○	・家庭状況を踏まえアルバイトを申請する生徒が増加している。正しい雇方を理解させ、適切に指導していく。
・平和人権係	4 人権意識と仲間づくり	・生徒の状況把握と情報の共有 ・組織的な支援	・生徒情報を職員会で確認。常時間閲覧。係は各学年に配属。担任、学年、クラブ顧問と連携して対応しよう心がけた。 係相談138件(1年19名、2年33名、3年5名)	○	・配慮すべき生徒の周知、情報共有には引き続き努力する。 ・できる限り授業時間以外に相談に来るように生徒に連絡をする。 校内の他の係や担任、学年と連携して効果を高めるよう引き続き努力する。	
		・関係諸機関や外部機関との連携支援	・スクールカウンセリングは現在まで84h。 ・来年度での対応について医師に問い合わせたケースが3件。 ・ソーシャルワーカーとの連携6件、市町村への通告2件	○	・カウンセリング配当時間は不足しており、追加を希望。 ・来年度もコンサルテーションには担任の先生が都合のつく範囲で同席 ・外部機関と積極的に関係を築き、支援を行う。	
		・校内支援態勢の充実	・クラス、クラブ、授業等の中で担当職員が生徒とよく対話をして対応していただいているケースが多い。 ・生活アンケート、7メスを有効利用するように努めた。	○	・今後も生徒との対話を重ねていく。 ・生徒のことを相談できる職員関係を大切にしていこう。 ・SSWによる職員研修を予定。	
		・いじめや不登校の予防と適切な対応	・教育相談係と共催で平和・人権活動鑑賞会を実施。	○	・体育館に集まり講師の先生を招いて実施した。	
・保健係	5 健康・安全教育	・健康・安全教育の充実 ・生徒及び職員の健康支援 ・感染症予防と環境衛生の推進	・行事のさいに全体または個別に支援を行った。・保健委員会の当番活動、保健だよりの発行。	○	・インフルエンザの流行等あったが、保健だより等で予防の呼びかけ等行ってきた。	
		・校舎内外の美化の推進	・ゴミの分別等、不十分なところもあるが、改善はされている。 ・職員の監督・指導がないと自発的に清掃に取り組みることが難しい生徒も多い。	○	・清掃は日々の日課である。生徒、監督職員全員で取り組むことで、清掃への意識を高めていきたい。	
・校友会係	7 自主活動の促進 校友会活動の充実	・リーダーの育成と自主的で組織的な活動 ・委員会活動の活性化 ・校友会行事・文化祭の質的向上	・役員会を重ね、生徒の自覚を育むよう行事や委員会活動に取り組ませた。文化祭などの行事では、運営とともに、委員会や全校生徒への周知に力をいれさせた。	○	・生徒が充実感をもって活動できるよう、生徒自身が考える場を設定していく。時間・手間のかかることだが、生徒の自治意識を育むため、今後も丁寧に指導を続けていきたい。	
		8 クラブ活動の充実	・加入促進と各部の活発な活動 ・各種大会、コンクール参加に対する支援	・クラブ説明会にて、部員の実演等を行い、加入促進に努めた。壮行会も適宜実施することができた。文化祭では文化部発表・展示を保護者の方に観覧していただいた。 (2学年) ・進路への意識を早くから持てるよう、12月より進路室面談を全員に実施した。1月現在まだ途中であるが、進路室で話をすることにより進路に対する積極的な目標を持つ生徒が出てきている。 ・3月に就職希望者対象のインターンシップを計画している。希望する業種または企業で体験し、3年からの進路活動でより具体性を持たせたい。	○	・各学年様々な進路行事があるが、その都度事前学習をしっかりと行い、行事に参加する目的や意義を確認させる。また振り返りも行うことで次の段階への参考にさせる。 ・1、2年のうちから外部の方と話をすることにより、生徒各自の意識の持ち方や、「大人の話を聞くこと、大人と話をすること」に慣れさせ、3年での進路活動につなげたい。
II 進路指導	1 進路意識の高揚および早期確立 (1)自己理解を深める (2)職業観を確立する (3)自己の将来を展望する (4)進路を吟味する (5)社会参加を促す	・進路講演会、校内外ガイダンス・説明会、個人面談を通じ、学年に応じた進路意識の確立	(1学年) ・1学期は基本的な生活習慣と学習習慣を確立することを学年中心に指導の重点とした。2学期以降は、諏訪実ミニメッセ(9月)・経営者と語る会(11月)・インターンシップ(2月)を実施。様々な大人と接することで、「仕事とは」「働くこととは」の観点で、今後の進路意識や将来設計をしいていく契機とした。	○	・各学年様々な進路行事があるが、その都度事前学習をしっかりと行い、行事に参加する目的や意義を確認させる。また振り返りも行うことで次の段階への参考にさせる。 ・1、2年のうちから外部の方と話をすることにより、生徒各自の意識の持ち方や、「大人の話を聞くこと、大人と話をすること」に慣れさせ、3年での進路活動につなげたい。	
		1年生 基本的な生活習慣と学習習慣の確立 進路意識の高揚および情報収集	・進路行事を行う際には、何を目的に参加するのかを明確にした。特に「経営者と語る会」については事前に質問を主催者側に伝えため、双方の意見交換が活発にできた。	○	・進路への意識を早くから持てるよう、12月より進路室面談を全員に実施した。1月現在まだ途中であるが、進路室で話をすることにより進路に対する積極的な目標を持つ生徒が出てきている。	
		2年生 進路の方向性の決定 ミニメッセの活用 インターンシップの活用 経営者と語る会、経営者ジョブシャドウによる地域産業理解 オープンキャンパスの活用 松大チャレンジの活用	・3月に就職希望者対象のインターンシップを計画している。希望する業種または企業で体験し、3年からの進路活動でより具体性を持たせたい。	○	・進路への意識を早くから持てるよう、12月より進路室面談を全員に実施した。1月現在まだ途中であるが、進路室で話をすることにより進路に対する積極的な目標を持つ生徒が出てきている。	

評価項目	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
III 学習指導 ・教育課程委員会 ・学習係 ・教務係		2 進路保障	・個人の興味、能力、希望に応じた進路選択と実現  3年生 本人および保護者の納得した進路選択(進路希望とその実現)	(3学年) ・就職:希望者に対し、企業見学会を実施(5、6月)。限られた期間ではあるが、生徒が納得した応募先を決定できるようにした。 ・進学:進学者の割合が今年度は多かった。学校推薦制度を利用して出願する生徒が多かった。書類作成・面接指導が十分でないところがあった。	○				・3年就職希望者に対しては、校内職員全体で面接指導等にあたっている。進学者も、面接が重視される場合が多くなっているため、就職希望者と同様の指導体制を作りたい。
		1 21世紀型学力の養成 新教育課程の検証	・科目指導法の研究と実践 ・シラバスの検証 ・昨年度の反省を踏まえた教育課程表の見直し及び学習集団の再検討	・各教科、シラバスに基づいた授業と評価を行った ・3年選択科目に関わる見直しを行い、全教科合意の学習集団の検討については、他の部署で行うとのことになった。	○				・教育課程表に関しては、新たな検討課題が出されているので、全職員で考えられるよう、委員会の実施を適切に行い、議論を深めながら検討していきたい。
		2 基礎学力の習得 意欲・関心の喚起	・学習習慣の確立 ・授業態度、授業に臨む姿勢の指導  ・学習理解度の把握と定着への継続的指導 ・基礎学力診断テストの活用 ・BabyStep(ドリル)の活用	・今年度は、学習に関する具体的な提案ができなかった ・基礎学力診断テストについて、意義の確認と事前学習を積極的に行った。結果の活用についてはもう少し考える必要がある。 ・BabyStepは、今年度は実施方法の検討のため実施せず。年度末に来年度からの実施について検討する。		○			・授業改善、観点別評価など、検討する事項を明確にして来年度取り組んでいく。職員の授業公開週間も有効活用できるよう、他部署と連携する。 ・BabyStepについて来年度の方向性を出して、4月から取り組んでいけるようにしたい。
		3 観点別評価	・観点別評価の実践研究	・他の部署で実施予定であった研修会に向けて、職員アンケートをとりまとめたが、実施に至らなかった。			○		・観点別評価の実践研究にあたるべき部署を明確にし、連携をとって取り組んでいきたい。
IV 専門科  商業科  会計情報科  服飾科		4 SPH後の地域との連携	・地域文化・伝統に関する講演会 ・文化ビジネス研究における実践 ・地域課題についての発表会	・文化ビジネス研究については、一定の成果が挙げられている反面、授業の持ち手の困り感や、これから目指していくべき方向性等いくつかの課題が挙げられているので、次年度に向けて、課題を整理、目指す方向性が明確になるよう進めてきている。		○		・授業担当者の引継ぎや、これまでの実践の成果を整理することで授業担当者の困り感を払拭するとともに、この課題について考える委員の選出母体や選出方法等検討していくようにしていきたい。	
		1 専門教育の改善・充実	・専門科目の学習目的理解と意欲の喚起  ・社会人基礎力や専門性を高める授業の実施と学習支援	<商業・会計情報科> ・昨年度よりスタートしたコース制について教育課程等、学力の低下傾向、多様な生徒に応じた授業展開や講座編成、補習の実施、またコースの特色をいかに活用していくかが課題である。  <服飾科> ・3年次の学習成果発表会を3年間の学びの集大成と位置づけ、1年次から専門科の学習は、そこに行きつくものとして全ての学びが重要であるという理念のもとに指導することができた。 ・生徒により、学習に向かう姿勢や技能に大きな差があり、個々に応じた指導には限界があると感じている。		○		<商業・会計情報科> ・来年度で全学年が新課程に移行するが、各コースにおける専門科目の学習の充実と進路活動へのアプローチをどう考えるかなど、課題は多い。商業教育に関して各学年での意識づけ、コースごとの方向性や授業活動についてより具体的に検討する。  <服飾科> ・指導理念は継続していきたい。 ・TTで極力対応をしているものの、年々状況は苦しくなっている。専門科の学びの到達目標を維持するには、早い段階から保護者にも状況を説明し、理解していただくよう、より一層努力したい。	
		2 資格取得の促進	・各種検定を利用した学習意欲の向上 ・進路活動を意識させた検定取得の促進	<商業・会計情報科> ・検定試験の位置づけ・考え、授業による一斉受験などについて見直した。 ・検定への意欲の低下がみられるが、高度資格の取得や授業に限らず、主体的に挑戦しようとする生徒の姿もあった。  <服飾科> ・家庭技術検定1級合格者 11名 うち2冠9名 ・色彩検定2級合格者2名 3級合格者3名		○		<商業・会計情報科> ・一斉受験以外の個人による受験数は一定数あった。しかし、資格取得に向けての学習習慣が確立できていないため、何らかの補助は必要であると感じている。  <服飾科> ・検定に対する意欲の低下が顕著だったが、検定のみならず日頃の授業や学校生活に対する生徒の取り組みに対して、きめ細かく指導していきたい。	
		3 地域との連携	・各種取り組みの継続と発展  ・諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業	<商業・会計情報科> ・諏訪タウンでは地域団体、企業との連携を増やし、ステージ発表や販売活動などの幅を広げた。 ・また、キッズビジネススタウンの募集枠の拡大、上諏訪商店街・地元小学校と連携したキッズビジネススタウンすわを駅前のすわつちやでお開催した。 ・このほか、文化ビジネスにおけるデュアルシステム、地域企業と連携したデザイン・商品開発や企画プレゼンテーションなども継続的に実施している。  <服飾科> ・今年度も諏訪大社の縁起物のデザイン取組みを行うことができた。 ・1学年は、岡谷蚕糸博物館に見学に行くとともに、岡谷絹工房での機織り体験を行った生徒もおり、地域の伝統産業の理解を深める機会を持った。	○		<商業・会計情報科> ・地域企業からの依頼をはじめ、継続的に取り組んでいるものなど、幅広く活動の機会をいただいている。 ・コース制への完全移行に伴い、諏訪タウンの在り方、実施については、全面的な見直しが必要。各方面よりご意見をいただければと思っている。 ・これまでの活動も含め、各コースの授業内容と照らし合わせ、今後どのような活動ができるのか、具体的に検討していきたい。  <服飾科> ・1学年で岡谷蚕糸博物館を見学することは、地域を知る上でとても有意義だと感じられたので、今後もできるだけ継続したい。		
I 教務係		1 学校活動全般の企画・運営	・日常業務運営のための関係部署間の連絡調整及び情報収集  ・業務の整理・改善と新規企画 ・PTA活動の精選(PTA総会、役員の出発方法) ・緊急時等の適切な情報把握と対応(緊急メールの活用) ・校務支援システムによる情報の共有(月曆、施設予約、生徒の出欠席、成績)	・事故による電車の遅延や、インフルエンザ蔓延防止に調整する休校等、諸問題について、関係部署と調整を踏みながら、調整できた。  ・業務改善や新規企画についてはできなかった。 ・PTA活動の選出方法については現在検討中。 ・休校の連絡等、様々な場面で活用できている。  ・職員の意識も高まりつつあり、有効に活用することができている。業務の効率化に貢献している。	○			・今後も迅速に対応したい。  ・必要に応じて行っていききたい。 ・年度末に向けて、新たな方針を打ち出し対応する。 ・加入率は上昇傾向にあるが、まだ全員にはなっていないので加入率を上げていく努力が必要。 ・今後も業務の効率化のために利用していきたい。	
		2 職員研修の充実	・研修内容の精選(観点別評価) ・研修会の設置と支援	・全体で研修会を行うことはできなかったが、観点別評価については各教科、学年で議論が深まり、理解を進める中でそれぞれの教員が授業展開できている。		○		・今後も必要に応じて、計画・運営していきたい。	
		3 広報活動の充実(開かれた学校づくり)	・学校案内・学校要覧の発行 ・HPの充実(更新)  ・保護者等への情報発信(マチコミ(PTA連絡網)とHP)  ・学校開放事業の周知と充実(中学生体験入学)(授業公開)	・予定通り年度初めに発行することができた。 ・滞りなく業務を遂行している。HPに加え、インスタグラムも活用して情報発信を行っている。  ・以前は紙面のみで行っていた連絡事項等もPTA連絡網を使って配信も同時に行う形をとるようにしている。以前よりも連絡が行き届きやすくなっている。  ・(中学生体験入学)多くの中学生が参加し、専門科の授業の体験をしている。 (授業公開)4月、6月、10月合計3回の公開を行っているが、中学生からのニーズを考慮して、次年度以降は6月、10月の年2回の公開として、4月の公開は本校の保護者のみの公開とする。	○		・今後も行っていききたい。 ・現在のHP、インスタグラムに加えて、情報発信の手段や方法をもとめていきたい。 ・今後も行っていききたい。  ・時期については現在8月初旬に行っているが、もう少し早める方向で検討している。 ・本校の魅力がより伝わりやすくなるように、開催時期や見学の科目等を考えて計画したい。		
		II 学校評議員会	1 本校の課題の共有と認識	・課題の整理と各分掌への報告	・本校の活動を見て頂き、様々な角度から貴重なご意見を頂き、本校の実践に生かしていくようにしている。		○		・教員の参加率が決して高い状況ではないので引き続き
III 地域連携 ※商業、服飾以外		1 近隣へのボランティア	・環境美化の推進:整美委員会を中心に学年(学級)単位で通学路のゴミ拾い・除草を行う。(整美係)  ・交通・生活・行動困難者への配慮と協力警察・ボランティア団体との連携活動(防犯登録・旋錠調査と改善呼びかけ)(生徒指導)	・年3回の校舎外清掃にて、通学路のゴミ拾いを中心に環境美化活動を行った。  ・警察と協同に交通安全啓蒙を2回行えた。今後も継続した連携活動を行っていく。	○			・校舎外清掃以外の機会にも整美委員会による環境美化活動を計画していきたい。	
		2 高校大学等との連携	・関係大学との研究協議・実践 ・授業体験によるインターンシップ	・松本大学にて、出前授業講座「松大チャレンジ」に2、3年生の希望者が参加。コロナ禍でしばらく実施できなかったが、再開できた。  ・各行事とも、ほぼ計画通りに実施できた。経営者ジョブシャドウについては、2学年就職希望者のインターンシップという形で行う。		○		・大学、短大進学希望者にもっと積極的に参加させるようにしたい。	
		3 企業との連携	・インターンシップ、諏訪実ミニメッセ、経営者と語る会、経営者ジョブシャドウ等の推進(進路)  ・企業勉強会、企業説明会の推進(進路) ・採用担当者の講演会(進路) ・内生生徒と採用担当者との面談(進路)	・中小企業同友会、商工会議所など多くの外部の皆様のご支援とご協力のおかげで、生徒たちは貴重な経験をさせていただいており、感謝申し上げます。		○		・各行事を行う際の事前学習と振り返りを充実させていく。	
		4 中学校との連携	・他地区を含む中学校訪問等(教務)	・本校在学中の生徒の様子や入試のことなど、情報共有を行っている。		○		・今後も必要などについて情報共有していくとともに、本校の魅力の情報発信に努めたい。	

(注1) 各学年は、関係の分掌と連携し、目標設定および評価に加わる。

(注2) 学校評価委員会が取り扱わない領域及び対象領域の重点目標(活動目標)についても、各分掌で年度当初に基本方針を提案し、反名委員会(1月)に成果と課題および改善策・向上策を提案する。